

八ヶ岳：阿弥陀岳

◆日程 2023年12月23日(土)～24日(日)

◆メンバー L：TY、OY、NS、IZ

本格的な雪山の前に寒さに体を慣らすため阿弥陀岳を計画した。

(記：TY)

12月23日(土) 天候：晴れ

横浜を5時半に出て車で八ヶ岳へ向かった。心配していた美濃戸口の駐車場の混雑もなく各自身支度を整えた。今年も暖冬だろうか道に雪がない。美濃戸山荘前で休憩し南沢を進む。薄っすらと雪が現れるが例年と比べると段違いに少ない。それでも行者小屋が近づくと薄いながらも雪景色となり現れた横岳の雄姿に歓声を上げた。

行者小屋に13時に到着。皆で設営。水場の水は元気よく流れていた。テントは数張りしかなく静かな宿となった。行者小屋は営業していないが赤岳鉱泉より小屋の人が来て一人二千元のテント場代を払う。年末は営業するとの事。

設営後は宴会となったが私は今シーズンの目標の一つの石尊稜の取付きの下部岩稜を偵察に一人行者小屋を後にした。中山乗越を下った所で一般道から横岳方面へ外れて石尊稜へ向かう。トレースはあったが一般道から外れるだけでドキドキした。トレースをどんどん進むと氷瀑にぶつかってこれ以上進めない。どうやら左隣の三叉峰ルンゼを詰めたらしい。少し戻って石尊稜の右側の鉾岳ルンゼ側から回り込み適当なところで石尊稜へ斜上した。雪が少なくアイゼンが効かない。傾斜は強くなり足元は不安定だがバリエーションはこんなものだろうと自分を奮い立たせた。ボロボロの岩(土?)にピッケルを刺しながらそれらしい岩場に着いた。懸垂下降してくる人に訪ねるとここが石尊稜の取付きであると答えてくれた。阿弥陀岳北稜や赤岳主稜よりもホールドが細かくバランスを要しそうだ。私は確認出来なかったが途中でハンガーボルトもあるらしい。15時を過ぎていた。日が暮れる。みんなが心配するだろう。下りは登り以上に怖かった。行者小屋に戻ったころには夕焼けが横岳をピンク色に染めていた。取り付偵察だけでも十分に冒険出来て満足だった。

その後は鍋とお酒とケーキで皆で語らい合い楽しい宴会となった。19時過ぎには就寝し明日の阿弥陀岳に備えた。



<石尊稜取付きの岩稜>

(記：TY)

CT：美濃戸口 9:21 - 美濃戸山荘 10:24 - 行者小屋 13:06 - 中山乗越-14:06 - 石尊稜下部岩稜 15:30 - 中山乗越 16:26 - 行者小屋 16:33

12月24日(土) 天候：晴れ

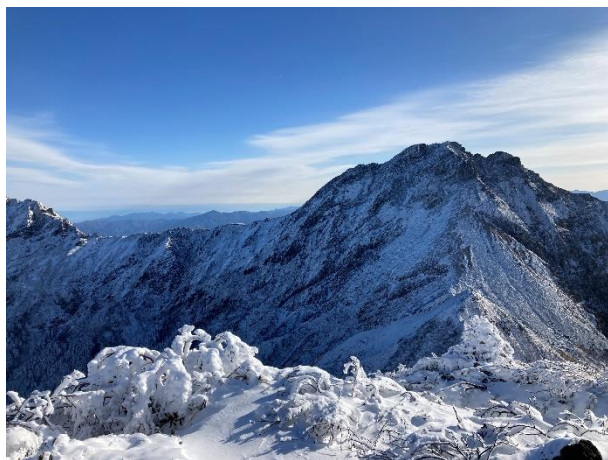
厳冬期のテント泊に緊張し、なおかつ寒さもありません寝れない状態のまま、4時半の起床となりました。朝は、IZさんが用意してくれたシーフード雑炊を食べ、いよいよ阿弥陀岳に出発です。この日も快晴となり、行者小屋から阿弥陀岳、赤岳の壮大な岩稜を眺めながら6時30分に出発となりました。ほどなく、阿弥陀岳への分岐を赤岳方面に進みます。

厳冬期ながら積雪量は多くなく、行者小屋から稜線までの積雪量は10~20cmといったところだったのでしょうか。登山道の階段が露出しているところにアイゼンを着用して登ったのですが、急登な上にアイゼン慣れしていないこともあり、息を切らしながら登って行きました。

稜線は結構風が強かったのですが、中岳に到着すると風も弱くなり、快晴の中、素晴らしい景色を見ながらの山行が出来ました。阿弥陀岳もなかなかの急登で、なんとか登頂すると八ヶ岳連峰が一望でき、さらに富士山、南アルプス、中央アルプス、北アルプスまで見渡せる絶景でした。赤岳を見ると20名ほどの人が頂上に見えましたが、阿弥陀岳は我々だけが独占できました。5分ほどするとガイドを連れて人が登ってきて、ガイドの人の記念写真を撮ってもらったところ、実はその方、以前はプロカメラマンだったらしく、素晴らしい写真を撮ってくれました。

その後は、阿弥陀岳から行者小屋へ降り、テントを撤収後に八ヶ岳山荘まで歩き、入浴、食事を済ませ解散となりました。

クリスマスだったこともあり、サンタクロースの格好での登山者も多くみられ、積雪量が少ないとはいえ、ホワイトクリスマスを体験出来てとても楽しい山行となりました。



阿弥陀岳から望む赤岳方面



阿弥陀岳山頂にて

(記：NS)

CT：行者小屋 6:30 - 7:39 文三郎尾根分岐 7:42 - 8:05 中岳 8:26 - 9:14 阿弥陀岳 9:30 - 10:30 行者小屋 11:19 - 13:27 美濃戸山荘 13:38 - 14:22 八ヶ岳山荘 (実働6:01)